
ベランダからどうぞ！

高倉亜季

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ベランダからどうぞ！

【Nコード】

N0503D

【作者名】

高倉亜季

【あらすじ】

学校から帰ると一人で留守番しているタカ。お気に入り窓の前で寝そべって空を見ること。そのベランダからある日突然訪問者があるなんて……

第1章 いつも留守番

四角い窓から見上げる空は、いつだって僕だけのものに思えた。いつものように学校から帰ってきて、いつものように床に寝そべって見上げれば、手の届きそうな気がして…。

「腹へったなあ。ママが帰ってくるまでもたないよ…。あの雲、綿菓子みたいだなあ。夏祭りで食べた綿菓子うまかったよなあ。」

僕は、目をつぶって夏祭りでの出来事を思い出していた。

「…そういえば、あのばあちゃんちの近くに住んでた女の子、名前なんだっけか？」

あの時は、忘れそうもないほど仲良く遊んでいたような気がするのに、今はなんだかあの子の顔もおぼろげだ。

「ん？」

なんか物音がしたような気がした。今日はえらく早くにママの仕事が終わったんだなと思い、起き上がろうとしたら…！突然、目の前に小さな女の子が現れた。…それに浮いてる？心臓が口から飛び出しそうになるってきつとこういうことだったんだ。僕はびつくりしすぎておまえは誰だって聞く前にこう言ってしまった。

「君、どうやって浮いてるの？」女の子はにっこり笑ってベランダを指さした。

（ああ、そうか。この子はベランダからはいってきたんだな。）とりあえず落ち着こうと思い、僕は深呼吸をしてから本題に入ることにした。

「君は、誰？」女の子は空中でクルクル楽しそうに回っている。

「やっと会えたね。私のこと覚えてる？」僕が首を横にふると女の子は少し淋しそうな顔したがすぐに笑顔に戻り、「私はずっと君

に会いたいと思っていたんだよ。でもね、今日は会いにきただけじゃないの。おば様が君じゃなきゃダメだって言うのよ。村の男の子じゃダメなんですって。」「おさげ髪をゆらゆら揺らしながら女の子は早口で言った。

「い、いったいなんのことさ。僕には君の言ってることがなんのことだかさっぱりだよ。」「僕の頭の中は突然入ってきた理解不能な情報でグルグル混乱し始めていた。おば様がなんだって？村の男の子がなんだって？この子の言ってること聞いてたら僕はこの子に会ったことがあるらしいけど…でも僕はそんなの全然覚えがないし…。女の子がふわりと着地した。」「とにかく私と一緒に来てくれる？大丈夫よ、怖いことなんてないわ。」「

僕はちよつとムツとした。こんな小さな女の子になだめられてるみたいだ。」「来てと言われたってダメだよ。だって僕は今、留守番してるんだから。ママが帰ってくるまで家にいなきゃいけないんだよ。…でも勘違いするなよ。僕は怖いから行けないってわけじゃないからね。」「女の子はニツコリ笑って言った。」「あら、留守番のことなら大丈夫よ。私に任せといて！」「女の子はそう言うなりまた浮かび上がり、そして僕の腕を軽く引つ張った。すると彼女は少し僕の腕に触れただけのように感じたのに僕の体までが浮かび上がった。」「

「ちよ、ちよつと待ってよ。いったいどこへ連れていくつもりなのさつ。っていうかなんで浮いてるのさつ。」「もう僕は何がなんだかわからない。」「

「大丈夫よ。怖くないって言ったでしょ。私の役目は君を村のおば様のところまで連れて行くことなのよ。」「そう言うた女の子はいつのまにか開いていた窓からベランダに飛び出した。もちろん浮かんだままだ。そして僕も浮かんでいた。・・・よく考えたらウチはマンシヨンの12階なんだ！僕は顔から血の気が引いていくのを感じた。」「

「ギャー！やめろ、やめろー！落ちたら死んじゃうんだぞ！」「

僕は必死で女の子にしがみついた。女の子はプツと吹き出して「大丈夫だって言ってるのに」そう言って僕の腕から手を離してしまっただ。・・・落ちるっ！僕はぎゅっと目をつぶった。・・・でも、浮いたままだ。まるで、ピーターパンみたいだ。風に揺られてフワフワしながら、僕がポツカリ口を開けていると女の子が言った。

「私の名前はセツ。じゃあ行くわよ、タカくん。」

とりあえず、彼女についていくしかないらしい。だってもう僕にはどうやってウチのベランダに戻ればいいのかわからない。あんなに遠くなってしまっただ。・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0503d/>

ベランダからどうぞ！

2010年12月17日02時48分発行